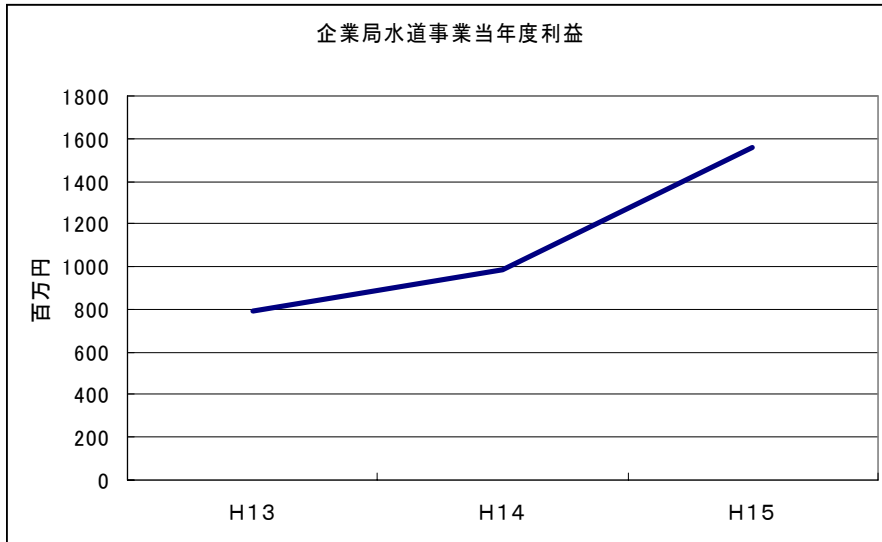


4 . 太田川系の基本料金 33 円 / トンの怪

～ 太田川系の基本料金 33 円 / トンの怪 ～

水道事業がこんなに儲かる怪

下のグラフに、直近 3 年間の静岡県企業局水道会計の当期利益の推移を示す。



H15 年度の年間売上高が 62.66 億円で 15.55 億円の利益、売上げ利益率が 25% の超優良企業である。

このような利益が上がる事業に、毎年巨額の国庫補助金、静岡県からの返済不要な出資金が投入されるのは不思議である。

また、公営企業としてこれほど儲けることが適当であろうか？

しかし、これだけ儲ければ事業規模拡大の動機が働くのが人情であり、太田川利水事業が強力に推進されるのは不思議ではない。

中遠系、湖北・湖西系、太田川系 3 水系の基本料金が全て 33 円 / トンの怪

ビジネスの世界では、受注するに際し、品質と価格と提示することは常識以前の問題であるが、静岡県企業局は太田川系受水市町村の水道料金を早く公表するようとの要請にもかかわらずなかなか公表しなかった。

その間に基本料金 + 使用料金合計で 100 円 / トン近辺の数値が議会筋から漏れ伝わってきた。ところが、2004 年 9 月の県議会で、基本料金 33 円、使用料金 14 円の数値が発表された。

そして、中遠系、湖北・湖西系の基本料金も 33 円と予測されるので、太田川系も含めて、中遠広域水道料金の基本料金を 33 円に統一すると発表され、平成 17 年 2 月県議会で承認された。

基本料金は主に事業費の償却、金利に必要な料金である。

使用料金は主に薬品等に関連する費用であり、過去の実績から 12 円 / トンと見積もられるが、太田川系については原水の水質が劣悪であり、活性炭処理が必要となるため、2 円高の 14 円 / トンが予定されている。

各水系の計画事業費と基本料金の関係を下表に示す。

水系	計画事業費(百万円)	契約水量(トン/日)	中遠系を基準とした計画事業費/契約水量	H16の基本料金(円/トン)	H21~25の予想基本料金(円/トン)
中遠系	15,582	111,400	1	33	33
湖北・湖西系	27,939	109,700	1.815	47	33
太田川系	48,200	67,400	5.1		33

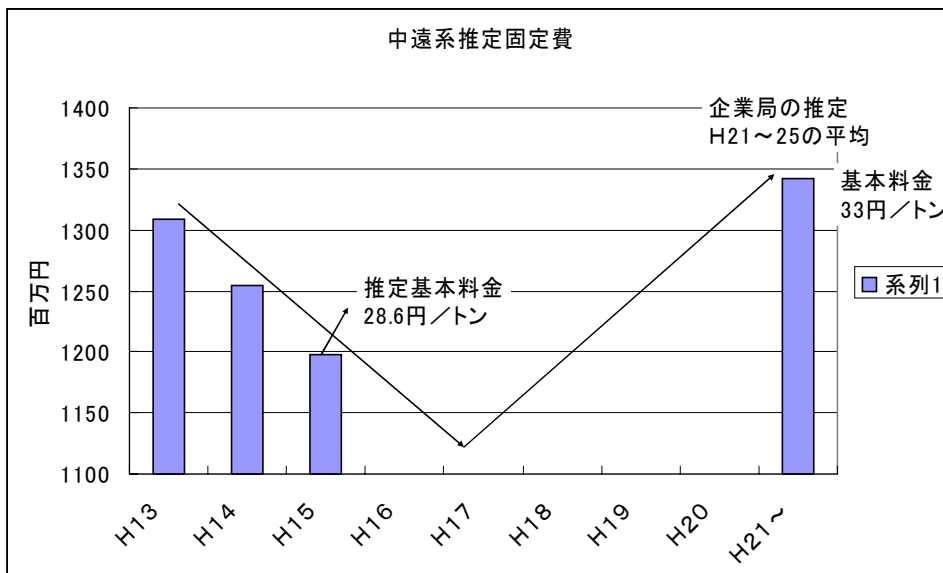
基本料金は総事業費 / 契約水量に比例することを考えると、太田川系は中遠系の約 5.1 倍になることが予想される。中遠系が作られた当時と比較して金利が下がっていることを考慮しても、減価償却が進んだ中遠系と同じレベルというのは、経済常識を打ち破る快(怪)挙である。

減価償却が進む中遠系の基本料金が突如上昇に転じる怪

使用料金を 12 円 / トンと仮定すると、中遠系、湖北・湖西系の決算書から固定的な経費を推計することができる。そして、これを契約水量で割れば基本料金を推計することができる。中遠系について、過去 3 年 (H15 まで) の固定的な経費の推定値の推移と企業局の予測する H21 ~ 25 の平均値を下のグラフに示す。

出典：企業局発行の水道別損益計算書

「遠州水道料金改定における水価の算出について」、企業局、H17 年 1 月 19 日



H15 年度の中遠系の基本料金推定値は 28.6 円 / トンとなる。経済の常識に従えば、更に減価償却、借入金の返済進み、基本料金は下がるはずであるが、企業局の H21 ~ 25 の予想基本料金は 33 円 / トンと上昇する。誠に不思議な話である。

企業局としては老朽化が進み、設備更新に新たな資金投入が必要とのことであるが、私企業の經理の常識から考えると理解の範囲を超える事柄である。

企業局は計画段階で過大な水需要予測を行った。

企業局はこれと同じように、中遠系のこれからの設備投資を過大に算定し、中遠系の基本料金を高く予測していると私どもは推察する。

しかし、現在の仕組みでは、企業局が算定する数値は職務権限により正当化される。